

蓮葉を詠む歌

三八二六番

蓮葉は かくこそあるもの 意吉麻呂が 家なる

ものは 芋の葉にあらし

双六の頭を詠む歌

三八二七番

一二の目 のみにはあらず 五六三 四さへあり

けり 双六の頭

香・塔・厠・屎鮒・奴を詠む歌

三八二八番

香塗れる 塔にな寄りそ 川隈の 屎鮒食める

いたき女奴

酢・醬・蒜・鯛・水葱を詠む歌

三八二九番

醬酢に 蒜搗き合せて 鯛願ふ 我にな見えそ

水葱の羹